

横浜市指定管理者第三者評価

横浜こども科学館

# 評価シート

横浜こども科学館指定管理者選定評価委員会

# 目次

1. 総評.....	3
2. 団体の状況.....	5
(1) 応募理由.....	5
3. 職員配置・育成.....	7
(1) 職員の確保、配置及び育成.....	7
4. 施設の管理運営.....	9
(1) 施設及び設備の維持保全・管理、修繕等への取組、事故防止体制・緊急時（防犯）の対応及び防災 に対する取組.....	9
(2) 利用者等のニーズ・要望・苦情への対応、個人情報保護・情報公開への取組及び人権尊重・環境への 配慮・市内中小企業優先発注など、本市の重要施策を踏まえた取組.....	11
5. 事業の企画・実施.....	13
(1) 科学体験の普及・振興のための考え方や方針.....	13
(2) 指定事業の実施計画.....	15
(3) 自主事業の実施計画.....	17
(4) 広報活動及び利用促進、学校教育機関・他青少年施設・地域等との連携や協働.....	19
(5) 新型コロナウイルスの影響による新たな生活様式に対応した施設運営の考え方.....	21
6. 収支計画及び指定管理料.....	23
(1) 利用料金等収入増への取組、指定管理料の額及び施設の課題等に応じた費用配分.....	23

## <評価の考え方>

A：提案書以上の成果を挙げている

B：提案書どおりの成果を挙げている

C：提案書の成果が挙がっていない※

※自己評価で「C」を選択した場合、「評価の根拠」の枠に何が課題となっているかを記載し、「今後の取組」の枠に解決策を記載してください。

## 1. 総評

指定管理者記入欄	評価委員会記入欄
<p>(取り組み事項等)</p> <p>館の運営自体はコロナ禍からの急激な回復期にあり、運営・収入面では安定している。今までは雨の日に遊べる施設として、雨天に集客が集中していたが、晴天時でも猛暑日などの来館者が増加傾向にある。</p> <p>R4年に新たなプラネタリウム機器を導入したことにより、団体のプラネタリウム利用も増加している。世界一プラネタリウムを持つ館として今後もプラネタリウムを使用した新たな事業に取り組んでいきたい。</p> <p>コロナ禍に取り組んだオンラインをつかった科学館活動については、現在対面式の活動に移行しているため、教室や映像配信の事業は中止している。しかし、講演会など多くの人に見ていただきたいもの、アーカイブ化する意味があるものについてはオンラインによる配信・アーカイブ事業を継続して行っている。</p> <p>オリジナルのワークショップや地元ボランティアによる活動が館の活気に貢献していることは間違いなく、集客施設としての認知度が上がっている。近年では定期的なライブ会場としての利用や、神奈川県で行っている太陽電池開発についての発表会場、民間企業が行っている衛星からの地球撮影イベント等のお声がけをいただくことが増えてきている。</p>	<p>この施設は、ニーズに応えながら地域等との多様な連携を進めることで、選ばれる施設になってきている。入り口付近に田んぼを作り、環境教育に取り組む姿勢を示すなど、館外での活動にも工夫が見られる。</p> <p>学習利用での来館者数は増加している。横浜には数少ないプラネタリウムであり、青少年が宇宙に関心を持つ世界一のプラネタリウムとして、より一層、プログラムの工夫などで特色を出していくことを期待する。</p> <p>コロナ後における科学館の活動は、コロナ前に戻すのではなく、発展・進化している。オンライン配信やアーカイブ事業の継続はその一環として有益である。</p> <p>コロナ禍からコロナ後への移行期において、科学館はオンライン対応などさまざまな工夫を凝らして活動を続けている。オンラインを活用することで、科学体験の普及・振興が途切れることなく継続された。また、常設展示の改修や老朽化した設備の更新も行い、こどもたちの科学や宇宙への関心を喚起するために不断の努力が続けられている。</p> <p>中高大学生をターゲットにした事業展開も今後検討すべきである。</p> <p>「横浜こども科学館」の特徴は、地域と共に育ってきた科学館である。地元ボランティアによるワークショップや館内展示は他の科学館にはない魅力であり、堂々とアピールすべきである。また、館内空間の改善によりライブ会場やイベント会場としても利用され、その成果が現れている。多くのボランティアが関わり、バラエティに富んだサイエンス教室が行われることで、地域に愛される科学館となっている。このような科学館は全国的にも珍しく、高く評価される。</p>

<p>従業員の働き方改革として、時間外労働の削減のための業務見直しや、給与額の見直しを行っている。また、働き手が減少傾向にあることを見据えた上で、60歳以上のスタッフ雇用や、プラネタリウム投影など今まで専門スタッフが行っていた業務をフロア解説スタッフが行えるように研修するなど、対策を進めている。</p> <p>今後も来館者や地元の人々のニーズに応えた柔軟な運営を行い、科学を切り口とした幅広い年代の学びに応えていきたい。</p>	<p>目に見える働き方改革が求められる時代において、給与額の見直しは従業員にとって最も重要な改革である。また、60歳以上のスタッフ雇用は地元ボランティアの延長線上にあり、多様な人材を活用することで他の科学館にはない特徴を出すことができる。さらに、専門スタッフがフロア解説を行えるようにすることは、サイエンスコミュニケーターを増やす上でも有益である。</p> <p>約20年前、土曜日が学校休日となり、こどもたちの理科離れが問題となった時期に、「洋光台サイエンスクラブ」を立ち上げ、それが現在、科学館事業の一つの柱となっていることに感慨深いものがある。</p> <p>「横浜こども科学館」は青少年施設としての役割を果たしつつ、公的施設として中高大学生を含む多様な年齢層が来館する工夫が期待される。青少年が科学体験を通じて未来を思い描き、スタッフも自身の人生設計が描けるような場となることが望まれる。</p>
---	--

## 2. 団体の状況

### (1) 応募理由

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
ア	管理運営に関する考え方	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	基本方針に沿って、公の施設として適切に管理運営されている						
イ	役割・課題に対する考え方	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	市の青少年育成施策の現状や課題を踏まえ、提案書で示す当該施設の役割を果たしている						
指定管理者記入欄		評価委員会記入欄					
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア、コロナ禍からの大きな社会情勢の変化もあるが、基本方針に沿って適切に運営しており、その結果地域からのイベント協力依頼や来館者増につながっている。</p> <p>イ、横浜市子ども・子育て支援事業計画などに則り、中学生職業体験の受け入れや、年間1,000回を超える教室を実施し、体験活動の機会提供を行っている。</p>		<p>【現状の評価】</p> <p>「みつける、つなぐ、あつまる」という基本方針に沿って、科学館は横浜市（以降、市という。）の施設として適切に管理運営されている。基本方針を守りつつ、コロナ禍を経ての流動的な社会情勢にも柔軟に対応していることは評価に値する。</p> <p>市の公共施設としての役割を理解したうえで、魅力的な施設であるよう、さまざまな工夫を凝らしている。第4期の運営方針として「みつける、つなぐ、あつまる、ひろげる」を掲げ、ソフト・ハード両面で計画的な事業展開が図られている。また、小学校の周年記念事業に科学館が企画・演出するなど、地域連携も進めている。</p> <p>洋光台サイエンスクラブで興味を広げたり、はまぎんキッズ・サイエンスで専門家の話を聞くことで、提案書に示された青少年育成施策以上の役割を果たしている。</p> <p>自己評価のとおり、多数の体験教室の実施や学校の校外学習の受け入れなど、こどもたちに体験活動の機会を提供している。科学工作教室（洋光台サイエンスクラブなど）の実施状況は地域の会議で共有されている。</p>					

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>青少年育成施設ではあるが、利用のほとんどが低学年および未就学児となっている。利用者として中高生を呼ぶのではなく、来館動機の少ない中高生を講師に迎え発表やワークショップを行う事で中高生の新たな学びの機会を創出したい。</p> <p>コロナが収束し、予想以上に来館者が増えている。来館者に快適に体験いただくよう、来館者の声に耳を傾けながら運営を行っていく。</p>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <p>青少年育成施設として、中高生の来館者数が少ないという課題を把握している。現場の教職員の声を聞きながら、中高生の来館者数を増やす努力が求められる。</p> <p>来館者数の増加を前提としつつ、多様な方々が満足できる科学館を目指す必要があり、オンラインに慣れた中高大学生や減免措置がある高齢者などに対応することが重要である。特に、青少年は、年齢層や背景により体験から得られる学びが異なるため、科学館体験のあり方を柔軟に考える必要がある。市側としっかりコミュニケーションを取り、適切な運営方法を模索することが求められる。</p> <p>小学校高学年や中高生に向けては、挑戦したくなる課題設定やコンテストの開催を検討してほしい。例えば、2階から卵を落とした時に割れないケースを規定のサイズの厚紙で作るなどの課題が考えられる。</p> <p>未就学児から中高生まで、科学への探求心を持ち続けられるよう、来館促進に向けて、中高生タイムの設定、学校との連携強化による科学部門の部活へのアプローチや難度の高いプログラムの導入が考えられる。</p> <p>「トライアル&amp;エラー&amp;トライアル&amp;サクセス」の実践に向けて、科学者の人生体験を聞ける座談会や、体験講座等によって「くじけない精神」を育むことが望まれる。</p>
---	--

### 3. 職員配置・育成

#### (1) 職員の確保、配置及び育成

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
ア	安定した管理運営体制について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	安全かつ効率的な運営を維持する体制を確立している						
イ	人材の確保及び育成について	A	Ⓑ	C	A	Ⓑ	C
	職員を確保し、育成、資質向上に取り組んでいる						
指定管理者記入欄		評価委員会記入欄					
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア、清掃については清掃シフトの見直しやロボットによる夜間清掃を導入し、以前よりもきれいな状態を維持している。 駐車場の機械化も行い、人手不足の折にも安定した運営を行えるようにしている。</p> <p>イ、コロナ明けの急速な売り手市場への移行に伴い、専門知識を持つ人材確保には苦労している。優秀な人材確保のため募集を随時行っている状態である。 令和6年度は職員給与の大幅なベースアップを実施した。</p>		<p>【現状の評価】</p> <p>安全・安心は公的施設の最低条件であり、その維持管理は大変であるが、シフトの見直しやロボットの活用により効率的な管理運営が行われている。駐車場の機械化も人手不足対策に最適である。技術を応用して効率的な運営を図る姿勢は評価できる。</p> <p>給与額の見直しは従業員にとって最も重要な改革である。60歳以上のスタッフ雇用は生きがいにつながり、多様な人材を活用することで他の科学館にはない特徴を出すことができる。専門スタッフがフロア解説を行えるようにすることは、職員のやりがいにもつながり、人材育成・資質向上に寄与している。</p> <p>人材育成は問題ないが、人材確保には経済的な面も重要である。科学館業界全体で低賃金が課題とされており、ベースアップの実施は評価される。職員の給与アップややりがいの向上に努めているものの、採用や定着にはまだ検討の余地がある。</p> <p>社会全体で人材確保が難しい中、給与引き上げやスタッフの提案・要望の受け入れなど、金銭面・非金銭面の双方で人員確保の努力が行われているが、離職者が出るなど不安定な人員体制となっている。科学館の業務に慣れると定着する傾向があるため、その段階になるまでの対策が必要である。</p>					

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修繕箇所については市と協議を行いながら、優先順位をつけて対応を行っている。</li> <li>・ 人材確保については世の中の動向をみてもこの先人手不足状態が続くと思われるため、以下の対応を検討している。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 離職率を下げる 安定した給与のベースアップの継続</li> <li>② 専門技術の一般化 安定したプラネタリウム投影を行うため、専門スタッフが行っていた業務をマニュアル化し、誰でも投影ができるように研修を行う。</li> </ol> </li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <p>産業医を入れてチームビルディングを行い、職員一人ひとりの状況を把握し、生きがいとやりがいを引き出すことで、科学館の管理運営体制を維持している。誰一人取り残さない取り組みを継続することを望む。</p> <p>今後も、専門知識と職務内容のマッチングに加え、給与面や待遇面の改善を続けることが重要である。離職の理由が明確でないため、ときには、ヒューマンリソース関連のコンサルタントなどを導入し、第三者の視点を入れることで人材確保と離職減につながる職場作りや募集の工夫を検討すべきである。</p> <p>職務内容の事前説明と実際のギャップを減らすために、インターンシップの導入を検討してほしい。教育学部・理工学部などの大学生や転職を検討している人に職の体験機会を提供することで、職との相性を確認できる。</p> <p>現在行われているマニュアル化や機械化は、サービスの質を保ちながら費用対効果を考慮して進めることが望まれる。</p>
--	---

#### 4. 施設の管理運営

(1) 施設及び設備の維持保全・管理、修繕等への取組、事故防止体制・緊急時（防犯）の対応及び防災に対する取組

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
ア	施設の維持管理について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	施設の維持保全に取り組み、適切かつ積極的な修繕を行うとともに、環境配慮への取り組みを行っている						
イ	事故防止、危機管理等への対応について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	事件・事故等の予防に向けた対策があり、発生時の体制が整っている。また、防災の準備があり、発災時の体制が整っている。						
指定管理者記入欄				評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア、フロアスタッフおよび中央監視による日常的な巡視を行い、異常箇所や破損箇所が見受けられた場合はすぐに対応を行っている。施設老朽化による雨漏りなどもあるが、現状すぐに修繕が行えない場所においても日頃監視することで大きな被害を防いでいる。</p> <p>また、ごみ削減の為、以前は使い捨て容器を使用していたカフェにおいては、食洗器を導入し運用を行っている。</p> <p>イ、年2回の避難訓練を実施し、発災時にスタッフがすぐに動けるように訓練を行っている。また週1回の救急箱や避難用具などの点検を行い、いざというときに使えるように備えをしている。</p> <p>大規模災害時には館内の人員を安全に館外へ脱出させ、帰宅困難者一時滞在施設である洋光台第一中学校への案内をおこなう。</p>				<p>【現状の評価】</p> <p>防犯カメラの設置により監視体制が整い、職員の日常のヒヤリハットを見落とさないよう心がけることで施設の維持保全に努めている。科学館としてSDGsの視点も重要であり、取組を表示することで市民への啓発にもつながる。</p> <p>経年劣化を日々の運用から把握しようとする姿勢は評価され、環境配慮も適切に行われている。掃除ロボットの導入により人的労力を削減しつつ、館内の清潔さを維持している。乳幼児の来館もあるため、衛生面や施設の老朽化による事故防止に引き続き留意することが望まれる。</p> <p>高校生の提案で作ったカフェも次第に改善されているようである。</p> <p>防災対応として計画的に避難訓練を実施し、災害想定に基づいたシミュレーションを行っている。自衛消防や避難誘導の責任者も明確化され、火災発生時への備えが整っている。発災時を想定した避難訓練は継続していくことが重要である。</p> <p>非常時のスムーズな連携のため、帰宅困難者一時滞在施設との通常時の交流も引き続き検討してほしい。</p>			

<p>【今後予定している取組等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磯子消防と連携した AED 使用研修</li> </ul>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <p>施設の老朽化対応は、限られた予算の中で計画的な修繕が求められる。経年劣化は災害時の安全に関わるため、市と長期的な視点で協議することが望まれる。</p> <p>館内は構造が複雑で設備も多く、暗い場所もあるため、災害時にパニックが起こる危険性がある。首都圏を襲う大型の地震を想定し、スタッフが誰であれ、来館者に身を守る術を指示し、停電時でも確実に避難誘導できるよう、定期的な訓練と避難通路のわかりやすい掲示が必要である。</p> <p>地域と連携した災害対策の実現も望まれる。</p> <p>災害時の来館者の安全の確保策、帰宅困難者一時滞在施設では受入れが困難な場合の対応など、市と協議を行い、災害対策ガイドラインを作成していく必要がある。</p>
--	--

(2) 利用者等のニーズ・要望・苦情への対応、個人情報保護・情報公開への取組及び人権尊重・環境への配慮・市内中小企業優先発注など、本市の重要施策を踏まえた取組

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
ア	ニーズの把握と分析について	Ⓐ	B	C	A	Ⓑ	C
	利用者等のニーズを把握・分析し、適切に対応している						
イ	個人情報保護等に対する取組みについて	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	情報セキュリティ対策、個人情報保護及び適切な情報公開に取り組んでいる						
ウ	本市施策を踏まえた取組みについて	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	人権尊重、環境問題、男女共同参画推進などの施策を踏まえた取組みを行っている						
指定管理者記入欄				評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア、・繁忙期である夏時期にアンケートを実施（年1回）</p> <p>・市内小学校向けに夏の自由研究について大規模なアンケート調査</p> <p>→学校での自由研究のニーズが低くなっていることを把握、R6の夏イベントでは工作から体験を重視したイベントへ切り替えた。</p> <p>イ、年に1回アルバイトも含めた個人情報保護についてのテストを実施。</p> <p>名簿データはパスワード管理し、印刷したものについては鍵のかかる保管庫にて保管している。</p> <p>ウ、障害者への合理的配慮の実施</p> <p>→雨天時に車いす対応駐車場から館内を通過して受付ができるように人を派遣</p> <p>雇用の平等性</p> <p>→男女区別ない雇用の実施</p> <p>→定年を迎えた年配の方の雇用（R6年度実績2名）</p>				<p>【現状の評価】</p> <p>社会や学校現場は日々変化しており、教育活動も大きく変化している。その変化に適切に対応している様子がうかがえる。ニーズ調査と分析を運営に結びつけている点は評価できる。</p> <p>アンケートは夏休みに実施されているが、回答者層が限定されているため、潜在的ニーズが拾いきれていない可能性がある。青少年、学校関係者、保護者など多様な層に対して、複数媒体でのアンケート調査やインタビュー調査など、さまざまなアプローチが期待される。</p> <p>情報管理の体制は整っている。個人情報保護についても適切なセキュリティ対策が講じられており、適切に運用されている。</p> <p>雇用の平等性により、多様な視点から科学館の工夫改善が期待される。職員の声に耳を傾けることが重要である。合理的配慮については、今後も前向きに取り組んでほしい。</p> <p>身体障がい者に対する合理的配慮がなされ、若者自立支援団体とも連携し、インクルーシブな社会の実現に向けた対応が行われている。発達障害の団体の児童が毎週通ってくる環境づくりも特筆すべき点である。</p>			

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体利用者むけのニーズ調査のアンケートを実施</li> <li>・一般の方向けの Web アンケートを実施。</li> <li>・最新のオンラインセキュリティについての研修を行う。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <p>館内の電子顕微鏡を利用したレポート作成の事例紹介を行い、科学館の利用方法の広がりとしてPRすることが望まれる。ニーズ調査は繁忙期以外や学校団体向けのアンケートの実施が望まれる。科学館体験による来館前後の変化をデータとして取得することも重要である。</p> <p>団体利用者が科学館を選んだ理由を把握し、魅力発見につなげることが必要である。アンケートを通じて来館者のニーズに対応するだけでなく、科学館として自らが信じる価値や実現したいことを能動的に発信・提案することも大切である。</p> <p>小中学校に対しては、「見て、触れて、体験して、学ぶ」プログラムを提案し、科学への好奇心を引き出すことが求められる。インクルーシブな社会の実現に向け、多国籍や社会的に弱い立場の方々への対応を強化し、外国語表記や障がい者が体験できる場の導入が期待される。</p> <p>若者自立支援団体と連携し、不登校や引きこもりの青少年が参加しやすい教室づくりも検討してほしい。</p>
---	--

## 5. 事業の企画・実施

### (1) 科学体験の普及・振興のための考え方や方針

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
科学体験の普及・振興のための取組		Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	体験を通じた青少年育成やSDGsの理念に沿った取組みを行っている						
指定管理者記入欄		評価委員会記入欄					
<p>【評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋光台サイエンスクラブや科学工作教室等を年間 1,000 教室以上実施、体験の提供を行っている。</li> <li>・環境学習リーダー会などの NPO 団体とも協力し、環境体験教室や新たな教室の開発を行っている。</li> <li>・科学館前庭ではじめた稲作は今年 4 年目を迎え、イネという植物についての学びの他、コメだけではなく藁も余すことなく使い、環境に関して実践的に学ぶ機会となっている。</li> </ul>		<p>【現状の評価】</p> <p>洋光台サイエンスクラブや科学工作教室は、「横浜こども科学館」の特徴である。科学館が提供する体験の場は量・質ともに安定しており、問題ない。常設展示、企画展、プラネタリウム、体験講座や教室、イベントなど、ソフト・ハードの両面から、多様な科学体験の事業が展開されている。例として、月の満ちかけ体験の設置は、小学生の理科授業で理解が難しい部分の思考の助けになっている。年間 1,000 回の講座・教室の開催は、同種の館と比較しても非常に多くの機会が提供されている。</p> <p>NPO 団体等との協力は、連携・協働の視点から重要な取り組みである。外部講師の力を借り、時流に合った企画を開催している点も評価できる。</p> <p>科学館前庭に稲作体験を設置したアイデアは有効であり、科学体験の普及・振興に役立つ取り組みである。ハードをうまく活用し、都市部での農業や食に関する取り組みも特筆すべき点である。建物内にとどまらず、前庭の活用や出前教室などで館外への波及にも取り組んでいる。稲作を通じた工作教室のクリスマスリースづくりや正月飾りづくりは大人気で、米の持続可能性についても学べている。</p>					

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>・職員へのSDGsについての研修を行い、共に手を取り合い発展させていく社会への理解を深める。</p>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <p>職員の研修に加え、市が率先して取り組むSDGs等の環境活動との連携・協働を広げてほしい。今後も幅広い体験を提供し、既存の枠に囚われない形で進めてほしい。</p> <p>講座や教室は、運営負担が過大にならないよう、また開催数が増大して収集がつかなくなぬよう、実施結果の検証に基づき、「参加者数が多いので続ける教室」「参加者数は少ないが、科学体験としての意義が高いので今後育てていく教室」「改善を加えて続ける教室」「廃止を検討する教室」など、教室の位置づけを整理し、毎年度見直しを行うことが重要である。科学館は、科学や宇宙に関心を抱く入口機能と、学びを深める深化機能を併せ持つことが期待されている。入口機能部分の教室は充実しているが、深化機能として連続講座や短期集中講座の導入も検討すべきである。</p>
---	---

(2) 指定事業の実施計画

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
	指定事業の実施について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	施設特性及び利用者ニーズを踏まえ、特色ある効果的な事業展開になっている						
指定管理者記入欄		評価委員会記入欄					
<p>【評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4 年度に新型のプラネタリウム投影機が設置されたことから、世界一の星空体験を提供し、それに伴うライブイベントや、星空撮影イベントを実施している。</li> <li>・プラネタリウムの更新を行ってからは更新直後の利用率（入場者数/入館者数）が一般 63%、団体 69%となった。その後 3 か月程度で一般はもとの利用率（40～50%）に戻ったが、団体利用では 60%～80%程度の高い利用率を維持しており、学習効果が高いと認められたと考えている。</li> <li>・展示フロアではスタッフ同士でより良い接客の情報交換ができるように、来館者との対話を記録に残し、喜んでもらえた解説手法を共有できるようにしている。</li> </ul>		<p>【現状の評価】</p> <p>アニメを目的に訪れる利用客が多く、星の知識を持ち帰るといふ特色ある事業展開を行っている。新型プラネタリウムを用いたイベントは、ここにしかない機器を使った取り組みとして注目される点である。プラネタリウム投影機の更新により、世界で最も多くの星を映し出すプラネタリウム投影機としてギネス世界記録に認定され、小学校などの団体利用が増加し、良好な効果が生まれている。また、天の川を実感でき、星座説明も迫力が増していることも特筆すべき点である。</p> <p>幼児や学童団体の鑑賞人数が多いことは、対象者のニーズに応じた効果的な事業展開を示している。特に小学4年生の学習内容に対応している点が評価される。団体向けの学習効果については、利用率以外の指標も調査が必要である。また、通常利用者の利用率が他の館のプラネタリウム更新時と比較してどうなのか調査が必要である。</p> <p>対話は非常に重要であり、職員による情報共有が工夫されている点は評価できる。スタッフ間でのログの記録と共有は、来館者へのサービス向上に大きく貢献している。展示設備については、コロナ禍や老朽化の影響を受けつつも、ボランティアが製作した三原色の展示、こどもが使える大きな顕微鏡や月の満ち欠けが体感できる展示などの工夫で、こどもが触れて体験できる機会が確保されている。</p>					

<p>【今後予定している取組等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界一の星空をより深く体験してもらうための撮影イベントやプラネタリウムを使った観察会などを実施する。</li> <li>・プラネタリウムで撮影した写真を使った書籍の出版。</li> <li>・団体利用アンケートを行い、よりニーズに適した施設サービスを探る</li> </ul>	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <p>市と協力して、世界一の星の数であること、世界一の工夫をしていること、そのPRにも力を入れるべき。生解説投影枠をアニメ枠に変更したことで、8月のプラネタリウム利用率が向上したが、宇宙への関心を引きつける「入り口機能」と、専門的な知識を深める「深化機能」のバランスを考慮しながら、上映構成を検討することが望まれる。</p> <p>プラネタリウムや撮影イベントに参加した方に向けた特色のあるPRを行うことにより、リピーターの増加が期待される。利用者のうちリピーター数の把握が必要である。学校に配付しているチラシを確認しているが、新型プラネタリウムの存在が認識されていないため、チラシなどで繰り返しPRを行うべきである。</p> <p>団体利用者の学習効果を利用率以外の方法で測定することが必要である。また、個人利用者向けのプラネタリウム活用も引き続き積極的に進めるべきである。</p>
---	---

(3) 自主事業の実施計画

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
自主事業の実施計画		④	B	C	④	B	C
	施設特性、利用者ニーズ及び地域等との連携を踏まえ、特色ある効果的な事業展開になっている						
指定管理者記入欄		評価委員会記入欄					
<p>【評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者の利用率は R5 では一般 82%、団体 17% の利用となっている。属性では大人 34%、小人 35%、幼児 22%となっている。属性に合わせたコンテンツの開発を行い、来館者のニーズに応えている。</li> </ul> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児向け…来館してすぐできる工作体験、</li> <li>小人向け…団体プログラムの充実/洋光台サイエンスクラブの多様化</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋光台サイエンスクラブにて R4 は 763 教室、R5 は 743 教室の教室を開催。ボランティアスタッフによる企画・教室が約 4 割となっており、全国でも横浜の科学館でしかできない独創性のある体験を提供している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋光台街づくり協議会と共に、ハロウィンイベントでの審査といった協力や、キャンドルナイトで作品を制作し発表するなど、地域と連携した活動を活発に行っている。</li> </ul>		<p>【現状の評価】</p> <p>職員の工夫や多様なアイデアを活かし、また、ボランティアによる振り子や三原色の木の展示など、特色のある効果的な事業展開を行っている。地下 2 階の奥を活用した謎解きアイデアは素晴らしい施設活用である。また、来館者のニーズに応じたコンテンツ展開も評価できる。さらに、5 階のサイエンスショウエリアがプロジェクターからモニターに変更されたことで、「キッズサイエンス」の迫力が増し、若手大学教授と子どもたちの距離が縮まり、天文学の説明がより分かりやすくなった。</p> <p>地元ボランティアによるワークショップや展示が特徴で、他の科学館にはない魅力がある。バイキング形式の教室が好評で、ニーズに応じた効果的な事業展開を行っている。ボランティアの役割は非常に重要で、館の特色となっており、スタッフと連携し、当館のミッションを達成できるように努めてほしい。</p> <p>地元団体と協力して立ち上げた「洋光台サイエンスクラブ」は、年間 700 以上の教室を開催し、その約 4 割をボランティアが担当している。この地域密着型の運営が、科学館の最大の特徴である。技術者を含むボランティアが発案した工作キットがミュージアムショップやオンラインショップで販売され、来館できない人々にも自己学習の機会が提供されている。</p> <p>地域連携の特色を生かしたイベントを実施している。</p>					

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>・教室数については数を増やすだけではなく、観察教室といった野外に行く教室や、ボランティアの専門知識を生かした教室など、質の面でさらなる向上を目指していく。</p>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <p>質の向上と特色の明確化、そして効果的なPRに努めてほしい。コンテンツの質向上には、評価基準の検討も必要である。</p> <p>出前教室は、労力とコストの負担が大きいため、オンライン技術を活用して対応することが考えられる。</p> <p>地域と連携したハロウィンイベントなど、多様な活動を展開しつつ、科学や宇宙の振興という使命をイベントに組み込み、参加者の関心を引き出すことが期待される。</p>
--	--

(4) 広報活動及び利用促進、学校教育機関・他青少年施設・地域等との連携や協働

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
ア	ニーズに合った広報と利用促進について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	ニーズに合った効果的な広報に取組み、利用者数や稼働率向上につながっている						
イ	様々な団体との連携・協働について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	小中学校等への体験活動の場の提供に取組み、地域等との協働の取組みができています						
指定管理者記入欄		評価委員会記入欄					
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア、小さなお子さんを持つ御家庭がよく見ている情報サイト「いこーよ」と連携し、雨の日施設として広告を行ったところ、HP 訪問者数と連動して来館者数が増えている。</p> <p>イ、洋光台周辺地域の小学校を対象とした「地域連携教室」、市内小学校を対象とした「出前教室」の他、洋光台地域小学校の周年行事への協力（プログラミング展示サポート、サイエンスショーの実施）を行った。</p>		<p>【現状の評価】</p> <p>情報サイトを活用して利用者の多いターゲット層に効果的にリーチできている一方で、広く青少年を対象とするには他のチャンネルの検討が必要である。</p> <p>紙媒体、HP、SNSなど多様な媒体を駆使した広報活動により、来館者数はコロナ禍前の水準に近づいている。</p> <p>経験年数の少ない教職員が増加する学校現場において、出前教室などのプログラミングサポートは大きな貢献をしている。洋光台第四小学校の50周年記念式典でのサイエンスショーも成功を収めた。</p> <p>自治会のテントを借りて科学館の外で実施する活動は、地域住民の目に触れることや限られた施設の有効活用という点で意義がある。</p> <p>市教育委員会や地元自治会、洋光台まちづくり協議会、市内小学校、横浜銀行などと連携し、多様なネットワークを構築している。</p>					

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報については引き続き市内小学校へのチラシ配布、WEB 媒体を使用し実施していく。</li> </ul>              <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脱穀機を R6 年度購入したため、近隣の小学校を含め、稲作をやっている小学校への貸出や出張授業を検討する。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <p>広報活動は、来館者数の増加だけでなく、科学館の理念に共感する人々の開拓にもつながるよう、効果的な媒体選択が望まれる。来館者数の報告に加え、HP訪問者数の報告を行うことで「HP訪問者数と連動して来館者数が増えている」ことの根拠が示せる。青少年層への広報媒体については、引き続き検討が必要である。</p> <p>中高生の来館促進には、市内大学との連携で大学生が企画・運営する講座の開催が考えられる。教育・理工系などへの進学を考える中高生にとって、大学生との交流は知識吸収と大学生活をイメージする機会になる。</p> <p>来館者数が多いのは良いことだが、混雑しているため、閑散期に来てもらうためのPRが必要である。</p> <p>小学校への稲作の勧めはぜひ行ってほしい。 脱穀機の貸し出しというアイデアが広がり、科学館が所有する貸し出し可能なものの拡充も検討すべきである。</p>
--	---

(5) 新型コロナウイルスの影響による新たな生活様式に対応した施設運営の考え方

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄		
		評価			評価		
ア	with コロナを踏まえた施設運営・事業展開	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	感染症と向き合うことで新たな運営手法・事業手法に取り組んできている						
イ	after コロナを踏まえた施設運営・事業展開	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C
	感染症の5類移行を踏まえ、after コロナでも残すことやafter コロナでの新たな運営手法・事業手法に取り組んでいる						
指定管理者記入欄				評価委員会記入欄			
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを利用した教室、講演会の手法を開発し、自宅から安全に教室に参加できるようにした。</li> <li>・ネットショップを開設し、自宅から科学館のオリジナル工作キットを購入、体験機会を得る一助とした。</li> <li>・感染症に関するオリジナルの展示・動画の開発を行った。</li> </ul> <p>イ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン教室については対面式の教室が増えたことから現在は開催を中止している。ただし、はまぎんキッズサイエンスなどの講演会については、オンライン中継を継続して行っている。</li> <li>・事業自体はコロナ前の規模に戻っているが、新しい生活様式や価値観の変化に合わせ、夏の企画展を自由研究主体のものから体験主体にする、混雑するスライムの企画展では館内各所に会場を分散し、密を避けるなどの工夫を行っている。</li> </ul>				<p>【現状の評価】</p> <p>自宅から教室に参加できる仕組みは、科学館のあり方を変える可能性がある。オリジナル工作キットのネットショップは、科学館の特徴をアピールし、体験機会を広げる取り組みである。インターネットを介した活動は、前例がない中で柔軟に対応してきたことが評価される。感染症に関する展示も、情報が不確定な時期からスタッフが工夫して取り組んできたことが評価できる。コロナ禍において、オンライン科学館を展開し、常設展示の閲覧や参加型教室の開催など、科学体験の普及・振興に努めてきた。</p> <p>コロナ禍を契機に新しい生活様式や価値観が広がり、施設運営や事業展開に影響を与えている。地下の休憩室は密を避ける工夫で開放的な環境に変わったことは評価できる。</p> <p>第4期指定管理者提案書では基本方針「みつける つなぐ あつまる」に「ひろげる」が新たに加わり、オンラインを通じて科学の営みを地域に広げることが目指されたが、年度ごとの報告書には「ひろげる」の項目がなく、コロナ後のオンラインの位置づけが明確になっていないと読み取れる。オンライン教室の中止はやむを得ないが、オンライン中継や動画配信の可能性は残されていると考える。</p>			

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>・コロナのようなパンデミックに限らず、世界情勢の悪化や、地球環境の変化によるこどもの体験機会の喪失に備え、オンライン教室システムの技術継承や、オンラインショップの維持などに努めていく。</p>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <p>時流を捉えた柔軟な対応や科学トピックの解説も引き続き取り組んでほしい。不登校の児童生徒の増加を踏まえ、科学館のプログラムが多様な学び方の一つとして選ばれるよう工夫・改善が求められる。有料のECサイト運営については、専門家に相談しながら事業展開を進めてほしい。</p> <p>対面とオンラインのハイブリッド運営は労力やコストがかかるが、オンラインは様々な事情で来館できない人々にとって貴重な機会となるため、人材確保と安定的運営体制の構築を前提に、「ひろげる」を継続することが望まれる。管理コストばかりが増加する場合は、オンライン教室やオンラインショップの利用状況を見ながら、終了の決断をする必要がある。</p>
---	---

## 6. 収支計画及び指定管理料

(1) 利用料金等収入増への取組、指定管理料の額及び施設の課題等に応じた費用配分

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			評価委員会記入欄																																																																																																						
		評価			評価																																																																																																						
ア	第4期指定管理での利用者目標	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C																																																																																																				
	利用者人数について、指定期間の達成目標に対し、順調に推移している																																																																																																										
イ	収支計画と費用配分について	Ⓐ	B	C	Ⓐ	B	C																																																																																																				
	適切な計画になっており、利用者サービスの向上や修繕への配分など、施設の特長や課題に応じた費用配分になっている																																																																																																										
指定管理者記入欄				評価委員会記入欄																																																																																																							
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア、</p> <p>R4年度</p> <p>実績来館者数 291,286人 目標来館者数 208,000人</p> <p>R5年度</p> <p>実績来館者数 320,276人 目標来館者数 224,000人</p> <p>R6年度</p> <p>10月までの来館者数 209,858人 目標来館者数 240,000人</p> <p>イ、得られた収益は展示改修や施設の維持管理予算としている。</p> <p>R4年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">【収入】</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>予算</th> <th>実績</th> <th>差異</th> <th>コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td>383,076</td> <td>461,392</td> <td>78,316</td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="5">【支出】</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>予算</th> <th>実績</th> <th>差異</th> <th>コメント</th> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>170,400</td> <td>190,923</td> <td>20,523</td> <td>人件費UP/緊急雇用創出</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>96,560</td> <td>104,911</td> <td>18,351</td> <td>ガスタービン撤去・ドレンチャージャー設備交換</td> </tr> <tr> <td>運営費</td> <td>66,116</td> <td>82,919</td> <td>16,803</td> <td>ホームページ改修</td> </tr> <tr> <td>事業経費</td> <td>60,000</td> <td>82,638</td> <td>22,638</td> <td>5F展示物撤去・トラス設置</td> </tr> <tr> <td>支出計</td> <td>383,076</td> <td>461,392</td> <td>78,316</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>R5年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">【収入】</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>予算</th> <th>実績</th> <th>差異</th> <th>コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td>396,454</td> <td>484,542</td> <td>88,088</td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="5">【支出】</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>予算</th> <th>実績</th> <th>差異</th> <th>コメント</th> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>177,158</td> <td>177,693</td> <td>535</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>80,140</td> <td>92,457</td> <td>12,317</td> <td>水光熱費・修繕・清掃費</td> </tr> <tr> <td>運営費</td> <td>68,280</td> <td>104,958</td> <td>36,678</td> <td>レンタル費、HP改修、一般管理費</td> </tr> <tr> <td>事業経費</td> <td>70,876</td> <td>109,434</td> <td>38,558</td> <td>ショップ・カフェ仕入、教室、展示</td> </tr> <tr> <td>支出計</td> <td>396,454</td> <td>484,542</td> <td>88,088</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				【収入】					項目	予算	実績	差異	コメント	収入	383,076	461,392	78,316		【支出】					項目	予算	実績	差異	コメント	人件費	170,400	190,923	20,523	人件費UP/緊急雇用創出	維持管理費	96,560	104,911	18,351	ガスタービン撤去・ドレンチャージャー設備交換	運営費	66,116	82,919	16,803	ホームページ改修	事業経費	60,000	82,638	22,638	5F展示物撤去・トラス設置	支出計	383,076	461,392	78,316		【収入】					項目	予算	実績	差異	コメント	収入	396,454	484,542	88,088		【支出】					項目	予算	実績	差異	コメント	人件費	177,158	177,693	535		維持管理費	80,140	92,457	12,317	水光熱費・修繕・清掃費	運営費	68,280	104,958	36,678	レンタル費、HP改修、一般管理費	事業経費	70,876	109,434	38,558	ショップ・カフェ仕入、教室、展示	支出計	396,454	484,542	88,088		<p>【現状の評価】</p> <p>コロナ禍の影響が続く想定の下で、5年間の指定期間中の目標が立てられたことや、想定より早く日常生活が取り戻されたことなどがありつつも困難な状況でも諦めずに努力を続けたことにより、来館者数は目標値を大きく超えている。</p> <p>来館者の大半は未就学児や小学生であり、市が依頼する青少年育成に関しても満足できる状況である。科学体験活動は、こどもが小さいうちに十分に体験してもらうことが重要であり、ターゲット層を意識した目標設定がされている。</p> <p>事業収支は想定より多くの収益を得ており、その収益は、常設展示物のリニューアル・改修や施設管理に使われるなど、良好な循環になっている。</p> <p>ただし、「その他事業（通販・アウトリーチ）」では収入実績が予算を大きく下回り、かつ事業費が事業収入を上回っているため、事業収支がマイナスとなっている。</p>			
【収入】																																																																																																											
項目	予算	実績	差異	コメント																																																																																																							
収入	383,076	461,392	78,316																																																																																																								
【支出】																																																																																																											
項目	予算	実績	差異	コメント																																																																																																							
人件費	170,400	190,923	20,523	人件費UP/緊急雇用創出																																																																																																							
維持管理費	96,560	104,911	18,351	ガスタービン撤去・ドレンチャージャー設備交換																																																																																																							
運営費	66,116	82,919	16,803	ホームページ改修																																																																																																							
事業経費	60,000	82,638	22,638	5F展示物撤去・トラス設置																																																																																																							
支出計	383,076	461,392	78,316																																																																																																								
【収入】																																																																																																											
項目	予算	実績	差異	コメント																																																																																																							
収入	396,454	484,542	88,088																																																																																																								
【支出】																																																																																																											
項目	予算	実績	差異	コメント																																																																																																							
人件費	177,158	177,693	535																																																																																																								
維持管理費	80,140	92,457	12,317	水光熱費・修繕・清掃費																																																																																																							
運営費	68,280	104,958	36,678	レンタル費、HP改修、一般管理費																																																																																																							
事業経費	70,876	109,434	38,558	ショップ・カフェ仕入、教室、展示																																																																																																							
支出計	396,454	484,542	88,088																																																																																																								

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数についてはコロナ前 2018 年の 334,770 人を目標とし、活動を進めていく。</li> <li>・来館者増に伴う収益の増加分は提案書にある通り 5F 展示室のリニューアル予算とし、新たな展示物を導入したいと考えている。</li> <li>・働き方改革の一環として、従業員の給与についても安定したベースアップを行い、長く安心して働ける場所を提供する。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <p>入館者数は目標値として念頭におくが、数値目標にとらわれると、集めやすい人・集まりやすい人の来館を促進してしまうリスクがある。入館者数以外の評価軸を市と調整し、新たな評価軸を作ることによって施策が柔軟に進められることが期待される。</p> <p>青少年育成施設としての役割を果たしつつ、市の唯一無二の科学館として、基本方針に「活動を横浜の隅々まで行き渡らせる『ひろげる科学館』という新たな性格を獲得し、日本に冠たる横浜市の科学館として、この大切な都市にふさわしい質と量を備えた活動を、今後とも堅持していきたい」と述べられている。当該理念を順守するため、地域ボランティアと連携し、中高生や大学生の来館者数を増やす工夫が求められる。また、高齢者の来館者数を増やすことも検討してほしい。来館者数の少ない曜日や時期が分析できているため、それに合わせ、濱ともカードの活用のPRとターゲット層のこどもたちと関わる高齢者向けプログラムを実施し、高齢者の生きがいになる取組みも検討してほしい。</p> <p>施設改修や大規模な展示更新については、市と連携し、長期的な視点で検討を進めることが望ましい。</p> <p>職員の「働き甲斐」を生み出すためには、人とのつながり、感謝されることや喜ばれることが必要である。来館者数の増加だけを目的とせず、職員、ボランティア、来館者が win-win の関係を築ける事業計画が求められている。人材確保の難しさを踏まえ、働き方改革を進め、休館日やスタッフの休息日を確保する必要がある。職員が今後の人生設計を描ける環境整備も検討すべきである。</p> <p>提案書に記載の収入を超えた実績の収入分については、施設の趣旨・目的に鑑みながら、来館者や、ボランティア、職員にとっても魅力ある場となるよう、支出方法を検討してほしい。</p>
---	---